

令和3年度第2回笛吹市行政改革推進委員会議事録

- 1 日 時 令和3年10月29日（金） 午後7時から午後8時15分まで
- 2 場 所 笛吹市役所本館 301 会議室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 古屋委員、渡辺委員、和田委員、奥山委員、鈴木（保）委員、西海委員、尾澤委員、堀内委員、竹内委員、角田委員、冬木委員
 - (2) 行 政 小澤副市長、返田総合政策部長
 - (3) 事務局 小澤政策課長、行政改革担当 鈴木、行政改革担当 岸本
- 4 欠席者 松本委員、鈴木（貴）委員
笛吹市行政改革推進委員会条例施行規則第5条の規定により会議成立
- 5 傍聴人 なし
- 6 次 第
 - (1) 開会
 - (2) 会長あいさつ
 - (3) 議事
 - ア 第5次笛吹市行財政改革大綱（案）について
事務局からの説明後、質疑応答を行い原案どおり進めることとした。

(質疑等)
竹内委員 この会議で出された意見や決定した方針は、他の部門で開催している会議や委員会等に情報提供されるのか。
事務局 鈴木 この会議の議事録は庁外だけでなく庁内にも公開しているため、他部門への情報共有はできている。大綱に記載される方針に関する具体的な意見については、本日配布した意見書のような形にまとめたものを各部門に伝える機会を作る。

竹内委員 意見書の中にある地域包括支援センターの在り方について、市の組織編制を変えるような具体的な検討はされてい

るのか。

事務局 鈴木 地域包括支援センターについての意見に対して、具体的に取組を開始はしていないが、関係課に意見として伝える。

堀内委員 この大綱は誰のためにあるのか改めて伺いたい。

事務局 鈴木 行財政改革大綱は総合計画を下支えする計画として、行政として取り組むべき内容が記載されており、市民のために質の高い行政サービスを提供するために定められる計画である。

堀内委員 市民の満足度や幸福感を測るような取組はあるか。

事務局 鈴木 上位計画である総合計画の策定時には市民アンケートを実施し、満足度や幸福感を把握する取組を行っている。

堀内委員 市民のために様々な施策に取り組んでもらっていると思うが、それらについての情報をもっと市民に開示してもらいたい。また、市民と行政が連携して取り組んでいくために、市民の声を聴く会のような取組があってもいいのではないか。

事務局 鈴木 情報の開示については、市民にわかりやすい市役所にしていくための取組の一つとして、市民への情報発信や説明責任についての取組を大綱にも記載しようと考えている。

冬木委員 平成 27 年の調査において、18-19 歳、23-25 歳の人口流出過多が目立つが、これは県内に自分の学びたい教育機関や働きたい職場が少ないことが原因だと考える。山梨県の強みを活かした学校を開設するなどの新たな取組も検討してほしい。また、人口減少対策には市民協働の推進も必要になると思うが、担当する部署はどこになるのか教えてほしい。

事務局 鈴木 冬木委員の考える人口流出対策は御意見として承る。市民協働については、市民環境部の市民活動支援課が担当部署となっている。

竹内委員 6 ページの歳出の見通しの部分で「扶助費については増加傾向が続くものと予測される」とある一方、「長期財政推計によると今後 10 年間は横ばいで推移すると見込まれる」とある。経済の低迷や高齢化により社会保障費は間違いなく

増加すると思うが、この見込みで問題ないか。

事務局 鈴木 社会情勢を考慮すると、全国的に扶助費は増加する傾向にあると予測されるが、昨年度作成した笛吹市の長期財政推計ではほぼ横ばいという数字が出ているためこのような表現になっている。財政課において今年度の長期財政推計を作成中のため、その数字を基に文言等を修正する予定である。

竹内委員 7ページの連結実質赤字比率の部分で、「全ての会計で黒字となっている」とあるが、水道事業については一般会計からの繰入れが多いと聞いている。そのような場合でも黒字という表現になるのか。

返田総合政策部長 御認識のとおり水道事業については一般会計から補う形で黒字になっている。そのような場合でも黒字という表現になる。

竹内委員 一般会計からの繰入金について、上限額や上限率などの基準はあるのか。

返田総合政策部長 水道事業については、一般会計からの基準外の繰入れに関して限度額は定められていない。

イ 笛吹市公共施設等総合管理計画の改訂に関する追補版について
事務局からの説明後、質疑応答を行い原案どおり進めることとした。

(質疑等)

堀内委員 公共施設等の取り壊しなどは、何の計画に基づいて進められているのか。市民には伝わっていないように思う。

事務局 鈴木 公共施設の管理計画については、平成28年度に大まかな基本方針を定めた公共施設等総合管理計画を策定し、ホームページでも公開をしている。より具体的な施設毎の計画については、令和2年度に個別施設計画及びインフラに関する長寿命化計画を策定し、ホームページ等に公開をしている。

堀内委員 ホームページだけではなく、広報紙でも施設の状況や今後の計画などを周知してもらえないだろうか。市民としても市の財政状況が厳しいことは理解しているつもりなので、対話を行いながら事業を進めてほしいと思う。

小澤副市長　市役所という末端の行政では、市民との対話が特に必要だと思っている。行政が勝手にやった、とは思われないように、丁寧に説明しながら事業を進めていきたいと考えているので、引き続き御協力をお願いしたい。

(4)閉　会